

令和6年度 第3回羽島市立竹鼻中学校運営協議会 議事録要旨

1	日時	令和7年2月26日(水) 午後1時30分～3時30分
2	場所	羽島市立竹鼻中学校 会議室 (北舎1階)
3	出席者	<p>学校運営協議会委員 16名/21名</p> <p>松下 友幸(会長 地域コーディネーター竹鼻町 不二羽島文化センター顧問)</p> <p>小林 美雪(副会長 地域コーディネーター福寿町 元西部幼稚園園長)</p> <p>小森 博昭(竹鼻町自治会長)</p> <p>番 敏郎(福寿町自治会長)</p> <p>牧野 貞臣(竹鼻コミュニティセンター館長)</p> <p>大野 仁作(竹鼻町民生児童委員会会長)</p> <p>岩佐 和子(福寿町民生委員児童委員)</p> <p>馬場まさ子(竹鼻町主任児童委員)</p> <p>大野 一明(竹鼻町青少年育成推進員)</p> <p>松野 正治(福寿町青少年育成推進員)</p> <p>下野 宗紀(羽島高等学校校長)</p> <p>大野 富生(竹鼻中PTA会長代理)</p> <p>平松 伸子(羽島市教育委員会教育支援センター)</p> <p>森山 健(本校 校長)</p> <p>安藤 宏(本校 教頭)</p> <p>米口真由美(本校 主幹教諭)</p>
4	議事	<p>1. 開会の挨拶(協議会 会長)</p> <p>2. 授業参観</p> <p>3. 「羽島市新しい時代の学校構想検討委員会」からの答申の報告 報告出席者 羽島市教育委員会 教育政策課 課長 小川 隆正 様 政策係長 岡田 真暢 様 教育支援センター 所長補佐 近藤 真弘 様 支援係長 天池 秀朗 様</p> <p>4. 学校運営について</p> <p>5. 令和7年度の学校運営について</p> <p>6. 意見交流</p> <p>7. 令和7年度学校運営協議会委員及び協議会期日等について</p> <p>8. ご指導(羽島市教育委員会 教育支援センター)</p> <p>9. 校長より</p> <p>10. 閉会挨拶(協議会 副会長)</p> <p><ご意見等></p> <p>【小中一貫教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひだまりキャラクター缶バッジについて、民生委員の挨拶活動時にも活用をしたい。 <p>【学校運営に関わって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりとPTAだよりを1つにまとめたことで、PTAの負担が少なくなったことを大きく評価したい。 ・不登校生徒への支援について、支援の具体的な内容を学校運営協議会委員と共有することも必要である。 <p>【会の運営に関わって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回ある学校運営協議会の中で、時には学校の状況報告後に学校参観を行うと、学校運営協議会委員から意見を伝えやすく、会が充実していくのではないかと。 <p>【生徒の様子について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科の授業で、昔は地図などを広げて確認していたが、今はタブレットを使用して瞬時に情報を得ることができ、生きた授業、立体的な授業展開ができています。 ・不登校の生徒について、年度が変わった際に復活する生徒もおり、よい傾向である。学校に目を向ける、足をはこぶ生徒が増えるように支援を大切にしてほしい。

		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者やその家族が不登校生徒にやさしく寄り添ったり、家での生活で手伝いをお願いして認めていったりして、本人の味方であることを伝え続けることが本人の意欲につながる。 ・就職を希望する生徒について、不登校であった卒業生も社会に出て働き、税金を払っていることを誇りに思う生徒もいた。高校進学をあきらめて引きこもる生徒を減らし、就職して社会に貢献できる生徒を増やしていくことも大切である。 ・生徒は自己肯定感が弱いため、大人としてよいところを伝えながら育てていきたい。 ・先生と生徒の距離が近すぎる気がする。先生は尊く、尊敬すべき存在であることをもう一度考えたい。距離はとるが懐は深くもって指導にあたりたい。 ・生徒の高校進学に向けて、夢をもって前へ進む姿を大切にさせたい。 ・道いっばいに広がって登下校する生徒が多い。自分の命は自分で守る意識をもたせ、安全に気を付けて登下校させたい。 ・クラブへの参加率が低いようである。仲間と共に活動する素晴らしさも考えさせたい。 ・主体的な生徒の育成には、じっと立ち止まって考える時間も大切である。 <p>【学校行事について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱フェスタに参加し、感動した。どこにも負けない合唱の力を今後も継続してもらいたい。 ・合唱フェスタで、子どもたちが楽しそうに活動している姿を見るだけで、大人も楽しくなった。良い経験をしている。生徒のやる気を出させる素晴らしい行事である。 <p>【地域について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域移行について、教師の負担を減らして生徒に目を向ける時間を増やすという面でも有効である。 ・文化部の地域移行について、吹奏楽や茶華道の練習場所として文化センターによい場所があるが、文化センターの規定等を確認し、中学生が使用していけるようにしたい。 ・来年度の行事の日程が決まり次第、また中学生のボランティアをお願いしたい。 ・それぞれの立場で地域の代表として意見を交流し、学校での生徒の姿を見て地域に問いかけていく、そういったサイクルができていく。 <p>【環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消えかかっている横断歩道などを整備し、安全に登下校できる環境を整えたい。 <p>【校長より】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは、地域の目や地域の声で育っていく。職員とも意見を共有し、地域を挙げて子どもたちを育てているという土台に立って進めていきたい。 ・私立の入試の日程が変更になる可能性があるため、来年度の行事予定が変更になる可能性がある。また、ブレザーの制服追加導入など、大きく変革のある令和7年度になる。来年度も地域と連携して取り組んでいきたい。
5	決定事項	令和7年度学校経営方針の承認
6	連絡等	令和7年度 学校運営協議会委員 令和7年度 学校運営協議会日程 (第1回 令和7年5月29日予定)
7	教育委員会指導	<ul style="list-style-type: none"> ・声が大きくて、ゆっくりはっきり話す先生の授業は、生徒はよく聞いている。そこをポイントにして指導していくとよい。 ・不登校から復帰するのに必要なことは、その子自身の力、家族の力、他者との関わりの3つが大切であると言われている。挨拶の活動は子どもに大きな影響を与えている。それを踏まえて、子どもたちと話し合いをし、活動を進めていくとよい。また、「ひまわりキャラクター」を活用したビブスも準備するとよい。 ・主体的に活動する生徒の育成には、先生が生徒を認め、ほめることが大切である。1つ褒められたことが、その子の一日を幸せにし、その積み重ねが主体的に活動する生徒につながる。